

◆ 国民生活センターの調査結果

日常生活の中で気になるニオイ

1. トイレ 64%
2. 生ゴミ 60%
3. タバコ 59%
4. ベット 24%
5. カビ 23%

2001年6月 発表資料

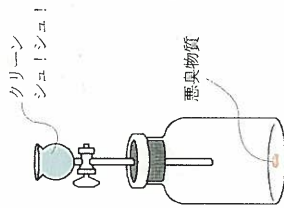
◆ 消臭効果の評価方法

消臭効果を評価（測定）する方法は、①悪臭成分の濃度変化を個別に分析する方法、②臭気の強度変化を臭気指数計、或いは人間の嗅覚による相対評価によって測定する方法があります。

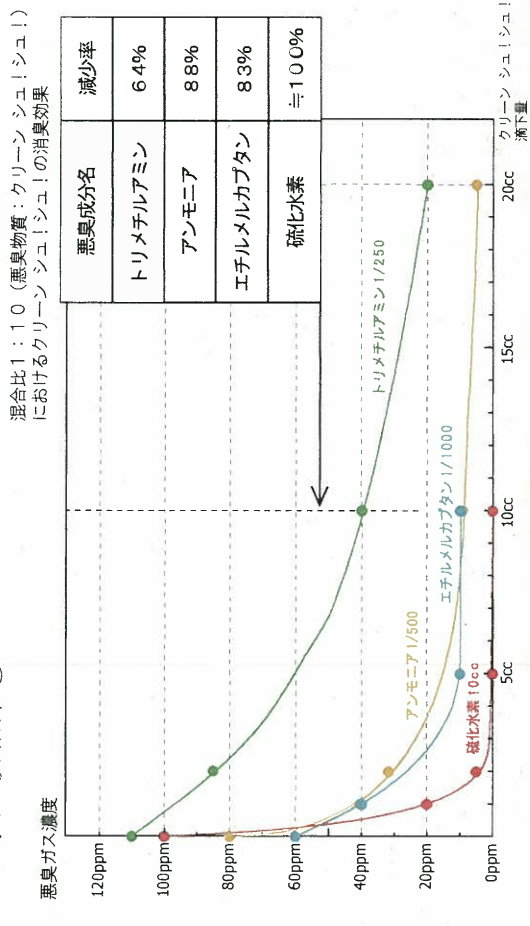
◆ 試験方法①

～濃度分析～

- ① 適宜希釈した悪臭物質（試験結果参照）1ccを500ccの集気瓶に入れ、栓をして試験前の瓶内のガス濃度が約100ppmとなるよう調節。
- ② 活栓付ロートをを用いてクリーン シュ！シュ！を1～200cc集気瓶中に滴下し密栓して悪臭物質と混合。
- ③ 10分間放置後、集気瓶内の悪臭物質のガス濃度をガス検知管で測定。



◆ 試験結果①



超電水 クリーンシュ！シュ！の消臭効果について

◆ 悪臭成分

悪臭成分は、4大悪臭成分と呼ばれるアンモニア（トイレ臭）、トリメチルアミン（腐った魚の臭い）、硫化水素（腐った卵の臭い）、メルカプタン（腐ったタマネギの臭い）が有名ですが、現実には酪酸（生ゴミの臭い）、アルデヒド（ホルマリン臭）等の臭気成分も含む混合臭が一般です。

◆ 試験方法②

～臭気指数測定～

- ① 臭気指数は人間が感じる臭いの強度を数値化する方で、臭気サンプルを無臭空気で希釈し、臭気が無くなった時の希釈倍率から算出します。
- ② 実際の測定は、右写真のような「臭気指数計」を用いて測定します。



◆ 試験結果②

- ① 臭気指数計を用いて喫煙室の臭気指数を測定しました。 臭気指数24
- ② 喫煙室内にクリーン シュ！シュ！を散布し30分後臭気指数を再測定しました。 臭気指数12
- ③ 臭気指数は24→12（希釈倍率に換算すると約1/16）に低下しました。

◆ 濃度分析値と臭気強度の関係

悪臭成分の濃度分析は正確で再現性のある比較が可能です。現実の臭気は混合臭が一般で、必ずしも悪臭中の一番濃度が濃い成分を人間が一番不快と感じるとは限りません。つまり、悪臭成分の中にはごく微量であっても不快と感じたり、また個人によって不快と感じる成分が異なる場合があります。

◆ 消臭効果（特にマスキング効果について）

消臭の一つの方法として香り付けによるマスキングがあります。これは実際に悪臭成分を除去するのではなく、例えばバラの花の香り等によって悪臭を臭いにくくする方法です。

◆ クリーン シュ！シュ！の消臭効果

クリーン シュ！シュ！は本来洗浄剤ですが、消臭効果も併せ持っています。クリーン シュ！シュ！は無臭で市販の消臭剤のようにマスキング効果はありません。そのため一部効果が弱いと感じる場合があるかもしれませんが、特にペット用にご使用になる場合には動物が異臭を嫌がる傾向があるので、クリーン シュ！シュ！のような無臭タイプをお勧めします。クリーン シュ！シュ！は他の消臭剤と異なり特に酸性系の臭い（硫化水素、酪酸等）に効果を発揮します。また洗浄効果があるため、臭いの元が分解除去されて「臭いが消える」という効果も有ります。

製品安全データシート

会社名 株式会社ケミコート
住所 千葉県浦安市北栄4-15-10
担当部門 研究開発部
電話番号 047-352-1131 FAX 047-352-1139
(連絡先)

[整理番号] 021202-1

作成 平成11年 1月13日
改訂 平成14年12月 2日

[製品名] 超電水 Clean Shu! Shu!

[物質の特定]

単一物質・混合物の区別 : 電解アルカリイオン水
製品説明 : この製品は液体状の除菌、洗浄剤です。
P R T R法指定物質 : なし
労働安全衛生法通知対象物質 : なし

[危険有害性の分類]

1. 爆発性物質 2. 高圧ガス 3. 引火性液体 4. 可燃性物質
5. 自然発火性物質 6. 禁水性物質 7. 酸化性物質 8. 自己反応性物質
9. 急性毒性物質 10. 腐食性物質 11. P R T R該当物質
12. その他の有害物質 13. 分類基準に該当しない

[救急措置]

目に入った場合 : 直ちに多量の流水で充分洗浄し、速やかに眼科医の手当を受ける。
皮膚に付着した場合 : 多量の水でよく洗浄し、刺激が残るようであれば医師の診察を受ける。
吸入した場合 : 不揮発性
飲み込んだ場合 : 少量飲み込んだ場合、水で口をすすいだ後、水または牛乳を飲ませる。
大量に飲み込んだ場合、吐かずに口をよくすすぎ、水を大量に飲ませる。その後、医師の診察を受ける。

[火災時の措置] 不燃性

消火方法 :
消火剤 :

[漏えい時の措置] : ウェス等に吸収させて、空容器に回収する。

[暴露防止措置]

管理濃度 : データなし
許容濃度 : データなし
設備対策 : 排気設備 (密閉 局所 全体 (不要))

[物理化学的性状]

外観等 : 無色透明液体
沸点 : °C 蒸気圧 : Pa (°C) 揮発性 : なし
融点 : °C 比重または嵩比重 : 1.00 (20°C) 初留点 : (°C)
溶解度 水 : (不溶 難溶 易溶) % (°C)
その他の溶媒 : (%) (°C)

[危険性情報 (安全性・反応性)]

引火点 : なし 発火点 : データなし
爆発限界 : データなし
可燃性 : データなし
発火性 : (自然発火性 : 有 (無))
水との反応性 : (有 (無))
酸化性 : (有 (無))
自己反応性・爆発性 : (有 (無))
粉じん爆発性 : (有 (無))
安定性・反応性 : (安定) 不安定) 酸と反応する。
その他 :

[有害性情報 (人についての症例、疫学的情報を含む)]

皮膚腐食性 : 短時間では腐食性なし。
刺激性 (皮膚、眼) : 日本白色種雄ウサギ (Kbs: JW) の背部皮膚 (擦過傷皮膚および非擦過傷皮膚) における皮膚一次刺激性指数は0で無刺激物と判定された。
(試験機関: 財団法人食品薬品安全センター)
アルカリ性の為、眼に対して刺激性がある。
急性毒性 : Sprague-Dawley系ラットを用いた単回経口投与毒性における致死量は20mL/Kgを上回る。(試験機関: 財団法人食品薬品安全センター)
感作性 : データなし
亜急性毒性 : データなし
慢性毒性 : データなし
がん原性 : データなし
変異原性 : Salmonella typhimurium TA100, TA1535, TA98, TA1537およびEscherichia coli WP2 uvrAに対して変異原性を有せず、陰性と判定された。
(試験機関: 財団法人食品薬品安全センター)
生殖毒性 : データなし
催奇形成 : データなし
その他 (水と反応して有害なガスを発生する等を含む) : なし

※有害性情報については各成分についての情報がある場合に示す。混合物についての情報は特に有していない。

[環境影響情報]

分解性 : データなし
蓄積性 : データなし
魚毒性 : データなし
その他 : アルカリ性

[廃棄上の注意] : 水で希釈して廃棄する。

[輸送上の注意] : 容器の破損、漏洩に注意する。

[適用法令（適用法令には番号に○印を付す。○印無しは該当せず。）]

1. 火薬類取締法
 2. 高圧ガス取締法
 3. 消防法（危）
 4. 安衛法施行令（別表1-）
 5. 船舶危告示（別表）
 6. 毒物及び劇物取締法（毒物、劇物）
 7. 有機則（1種、2種、3種）
 8. 特化則（1種、2種、3種）
 9. 鉛則
 10. 四アルキル鉛則
 11. 安衛則第326条
 12. 安衛法28条の3
 13. 化審法（2種特化物、指定化学物質）
 14. PRTR法（1種、2種）
 15. その他（）
-

[その他（記載内容の問い合わせ先、引用文献等）]

この情報は新しい知見および試験等により改正されることがあります。

記載内容はデータシート作成時点での知見に基づくものですが、保証値ではありません。

また、危険有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので取扱いには注意して下さい。

※ 空欄部分は該当しない場合、又は知見なしを示す。

以 上